

II 事業の概要（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

平成25年度は、事業計画書に基づき、経費の節約などにより効率的に事業を推進し、本県沿岸漁業の振興と県民生活の向上に貢献するよう努めるとともに、公益財団法人として公平性と透明性の確保にも努めた。

1 漁業振興公害対策事業

漁業振興基金基本財産運用収入に、一本釣漁業者団体から提供された種苗放流協力金（900千円）等を加え、事業費16,366千円で、沿岸漁業振興に係る次の事業を実施した。

（1）実施事業別一覧

事業名	地域振興事業	広域振興事業
① 漁業振興対策事業 (14,966千円)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 種苗放流事業 ・ 漁業施設整備事業 南駿河湾漁協等11件 (12,650千円) ・ 漁協合併合理化事業 伊豆漁協(103千円) ・ 漁港関連整備事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重要魚種増殖対策事業 県桜エビ組合(300千円) ・ 磯焼け対策事業 磯焼け対策協(200千円) ・ 漁業開発調査指導事業 漁連(400千円) ・ 漁協合併推進事業 ・ 種苗放流事業 漁業振興基金 クエ種苗放流(1,313千円)
② 漁業公害対策事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁場監視対策事業 ・ 公害対策関連事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公害対策等 漁業振興基金
③ 漁業環境保全対策事業 (50千円)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海底清掃事業 ・ 障害物除去事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広域的海岸・海中清掃事業 浜名湖をきれいにする会 (50千円) ・ 地先漁場保全対策事業

④ 教育広報事業 (1,350 千円)		<ul style="list-style-type: none"> • 漁業者等育成事業 漁 連 (1,100 千円) • 広報事業 漁 連 (250 千円)
合 計 (16,366 千円)	(12,753 千円)	(3,613 千円)

2 栽培漁業推進事業

栽培漁業基金基本財産運用収入、県補助金、市・町や漁業者の負担金等をもとに、当初事業予算 56,768 千円で、資源増大推進普及事業（補助事業）及び地域栽培漁業推進事業（負担金事業）並びに放流効果実証事業（基金独自事業）を実施した。

種苗の受入量は、マダイでは静岡県温水利用センター（本所、沼津分場）の種苗生産で不調が発生し予定数量の 64%に止まり、中間育成後の放流尾数は計画の 55%となった。一方、ヒラメでは予定量を受け入れ、中間育成後の放流尾数は計画を 35%上回った。放流尾数は、マダイが 674 千尾、ヒラメが 339 千尾となった。

なお、種苗生産機関である静岡県温水利用研究センターにおいては、東日本大震災に関連した浜岡原発の運転停止によって、それ以前と同様の温排水の仕様は困難になっているが、平成 25 年度は前年度に引き続き、国・県等による温水ボイラーや供給ポンプ等の整備・運転等が継続され、種苗生産への影響は限定的であった。

(1) 資源増大推進普及事業及び地域栽培推進事業

伊豆地域及び榛南地域で資源増大推進普及事業と地域栽培推進事業をそれぞれ一体的に実施するとともに、中部地域で地域栽培推進事業を実施した。

ア. マダイ放流事業

(ア) 伊豆地域

伊豆地域では、静岡県温水利用研究センター沼津分場から 20～30 mmサイズのマダイ種苗を 100 万尾購入する計画であったが、生産途中で腹部膨満症による不調が発生し、1 回の生産では計画尾数を確保できない見込みとなった。このため、2 回目の生産による種苗も受け入れることとし、最終的に、1 回次で 86 千尾、2 回次で 610 千尾、計 696 千尾の種苗を購入し、おおむね 60 mm以上のサイズまで成長させることを目標に中間育成を行った。中間育成の歩留りは 61.1%で、各地の漁業者に協力いただき、最終的に伊豆東岸地先に 150 千尾、伊豆西岸地先に 284 千尾、合計 425 千尾を放流することができた。放流尾数の目標 700 千尾に対し 55%の達成率に止まったが、放流した稚魚の活力は高く、健全な稚魚が放流できた。

また、放流後の減耗防止と定着率向のための音響給餌を、沼津地区幼稚仔保育場管理運営委員会に委託し、沼津市久料幼稚仔保育場において実施した。地元運営委員会は、久料沖の幼稚仔保育場で適切に音響給餌作業と施設管理等を行うと

ともに集魚状況の調査を行った。地元青壮年部等が設置した粗朶礁の効果もあり、幼稚仔保育場に相当量の滞留が観察された。

(イ) 榛南地域

榛南地域では、20～30 mmサイズのマダイ種苗を静岡県温水利用研究センター本所から 550 千尾を購入する計画であったが、沼津分場と同様の生産不調が発生し、資源増大推進普及事業で 68 千尾、地域栽培推進事業で 150 千尾、合計 218 千尾を購入した。おおむね 60 mm以上とするための中間育成を、南駿河湾漁業協同組合に委託した。その結果、例年より水温の高い時期の中間育成となったことなどから、平均尾叉長は 75 mmで、大型の稚魚となり、中間育成歩留りは 45.6%であった。各地の漁業者の協力をいただき、榛南各地先へ 99.3 千尾の放流ができた。放流尾数の目標 385 千尾に対して、達成率は 26%に止まったが、放流サイズが大きく十分に活力のある稚魚が放流できた。

(ウ) 中部地域

中部地域では、20～30 mmサイズのマダイ種苗を静岡県温水利用研究センター本所から計画（200 千尾）をわずかに上回る 202 千尾を受け入れ、地域栽培推進事業により、中間育成を小川漁協に委託し、60 mm以上の稚魚 151 千尾の放流ができた。中間育成の歩留りは 69.1%であった。放流尾数の目標 140 千尾に対して、達成率は 107.8%であった。各地先漁業者に協力いただき、田子の浦～大井川港の 7 地先に放流できた。

イ. ヒラメ放流事業

榛南地域のヒラメ放流事業は、平均 30mm以上のサイズのヒラメを静岡県温水利用研究センターから資源増大推進普及事業で 220 千尾、地域栽培推進事業で 200 千尾、合計 420 千尾を購入し、これを温水利用研究センター(陸上池)で 60 mm以上のサイズに中間育成し、吉田から御前崎の地先へ 339 千尾を放流できた。中間育成の歩留りは 80.7%であった。放流尾数の目標 252 千尾に対して、達成率は 135%であった。

ウ. 事業別・地域別マダイ及びヒラメ中間育成・放流結果一覧

(ア) 資源増大推進普及事業

魚種	マダイ					ヒラメ
	伊豆				榛南	
対象海域	網代	田子	内浦	計	地頭方	温水センター
中間育成場	網代	田子	内浦	計	地頭方	温水センター
中間育成尾数(千尾)	102	14	129	245	68	220
沖出し時全長(ミ)	27	30	30	27~30	24	35
放流尾数(千尾)	148	33	68	249	31	154
放流時体長(ミ)	68	65	75	65~75	79	67
実施時期	6月～9月					4月～6月

(イ) 地域栽培推進事業

魚種	マダイ						ヒラメ
	伊豆				榛南	中部	
対象海域	網代	田子	内浦	計	地頭方	小川	温水センター
中間育成場	網代	田子	内浦	計	地頭方	小川	温水センター
中間育成尾数(千尾)	218	127	105	450	150	202	200
沖出し時全長(ミ)	27	30	30	27~30	32	31	35
放流尾数(千尾)	102	101	73	276	68	151	185
放流時体長(ミ)	68	65	75	65~75	91	78	67
実施時期	6月～9月						4月～8月

資源増大推進普及事業及び地域栽培推進事業の合計

魚種	マダイ						ヒラメ
	伊豆				榛南	中部	
対象海域	網代	田子	内浦	計	地頭方	小川	温水センター
中間育成場	網代	田子	内浦	計	地頭方	小川	温水センター
中間育成尾数(千尾)	320	142	234	696	385	202	420
沖出し時全長(ミ)	27	30	30	27~30	24~31	31	35
放流尾数(千尾)	150	134	141	425	99	151	339
放流時体長(ミ)	68	65	75	65~75	79~91	78	67
実施時期	6月～9月						4月～8月

(2) 放流効果実証事業

沼津地域のヒラメについては、沼津市漁業協同組合青壮年部連絡協議会へ 60 千尾の中間育成を委託した。内浦漁協活魚棟でコンクリート水槽（20ト）2面に敷き網、吊り網（2網）の構造とし、着底面の密度調整と飼育環境の改善を図り、大型の稚魚を間引き放流した。死亡魚・残餌の除去等に注意して育成に取り組んだ。これらにより、前年度を大幅に上回る 73.3%の歩留りが得られた。各地への放流と併せ小学生の体験放流も実施した。

浜名湖のクルマエビについては、浜名漁協へクルマエビ稚エビ 2,000 千尾の中間育成を委託した。中間育成・放流場所は白洲（1,239 千尾）と雄踏（1,018 千尾）とし、8～9 日間、囲い網内に収容・給餌した。歩留りは、白洲が 34%、雄踏が 85%で、放流尾数は、白洲 421 千尾、雄踏 866 千尾、計 1,287 千尾であった。今後も、漁協の自主放流や水産技術研究所浜名湖分場の資源添加率向上技術開発研究と連携し、放流効果の実証に努めていく必要がある。

放流効果実証事業中間育成・放流結果一覧

魚 種	ヒ ラ メ	ク ル マ エ ビ	
対 象 海 域	沼 津 市	浜 名 湖	
中 間 育 成 場	内 浦	浜 名 湖	
中間育成尾数(千尾)	60	1,239	1,018
沖出し時体長(mm)	30	15.2～15.4	15.4～16.5
放 流 場 所	我入道、獅子浜、志下、三津、 重須、平沢、足保、久料、江梨、 御浜、中ノ島他	白洲	雄踏
放 流 尾 数(千尾)	44	421	866
放流時体長 (mm)	55～66	21.4(飼育8日)	21.4(飼育9日)
実 施 時 期	4～5月	8月～9月	